

平成 30 年度 事業計画書

平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日

公益財団法人 理想教育財団

基本方針

文部科学省の小中学校学習指導要領では、児童・生徒の「生きる力」の育成、知識・技能の習得と、課題解決に必要な思考力・判断力・表現力等の育成、さらに道德教育や体育などの充実による豊かな心や健やかな体の育成を基本方針としている。

理想教育財団は、学習指導要領に基づく「言語活動の充実」のため、児童・生徒の各教科における読解力や新聞教育等を通じた表現力・コミュニケーション力の育成を支援する。

また、健全な学校経営・学級経営の実現をめざし、学校・教師と児童・生徒、家庭、及び地域社会とのコミュニケーションの有用性を研究し、それらの活動に対し積極的な支援を行うことを基本方針とする。

【A】調査・研究事業

A-1 学校情報伝達システムの調査・研究

1. 通信づくり講習会、新聞教育指導者講習会等、教師又は大学の教職課程の学生を対象とした講習会を開催する。
2. 学校における通信活動の教育効果についての調査・研究
健全な学校経営、学級経営を補完する手だてとしての通信活動を再認識し、その教育的効果を再調査し、これからのあるべき姿を提案する。
「学校における各種通信の実態と教育効果に関する調査・研究報告」をまとめ発表する。

A-2 教師による自作教材の調査・研究

学習プリントをカラー化することによる教育効果や視覚的效果などについて調査・研究をする。

A-3 児童・生徒による創作表現活動の調査・研究

1. はがき新聞の教育効果に関する調査・研究
 - (1)コンパクトテキスト育成調査・研究
「はがき新聞」をコンパクトテキスト(短文章)と位置づけ、学習過程における「言語活動の充実」を視野に入れた、子どもたちの「考える力」「書く力」を高める具体的な方法として「はがき新聞づくり」を通じた教育を推奨し支援する。
特に、主幹教科である国語科において、物語文の要約と読解や、「俳句・短歌」において説明文を書く等の記述力を高める授業を支援する。
また、今後の課題とされる「読解力向上」及び「語彙力向上」のため「言葉ノート」等を活用しコンパクトテキストとの関連と教育効果について調査・研究をする。
 - (2)学級力向上プロジェクトとの連携での調査・研究・支援
はがき新聞を活用した学級力向上実践事例の調査・研究をする。特に、特別活動や教科化となる道德と学級力向上プロジェクトとの連動を推進し、その活動を支援する。

(3)平成30年度 理想教育財団教育フォーラムの開催

1)第9回教育フォーラム

- ・日時:平成30年8月19日(日) 午後1時～5時30分
- ・会場:大阪国際会議場(グランキューブ大阪)
- ・対象:全国の教育関係者及び財団関係者 250名
- ・基調講演「考え、議論する道徳科を創る」
- ・特別講演「新学習指導要領改訂の要点」

文部科学省初等中等教育局 教科調査官 浅見哲也先生

2)第10回教育フォーラム

- ・日時:平成31年1月27日(日) 午後1時～5時30分
- ・会場:時事通信ホール(東京都中央区銀座)
- ・対象:全国の教育関係者及び財団関係者 250名
- ・テーマ:未定

(4)はがき新聞助成開始10周年記念事業の実施

平成20年にはがき新聞の教育効果について助成を開始して以来10年が経過した。現在では全国の2,000校に近い学校が、はがき新聞を活用した授業に取り組んでおり、毎月その利用の輪は拡大中である。

10年目を迎える本年は更にはがき新聞の活用のすそ野を広げる為、以下の通りはがき新聞のコンクールを行う。

「はがき新聞ひろば」(案)

- 1) 対象:学年:小学校1年～中学3年まで(特別支援学級・学校含む)
- 2) 応募:個人(子供)・学級
- 3) 形式:はがき新聞
- 4) テーマ:各教科、行事、図書紹介、校外学習、その他

【B】情報提供事業

B-1 教育関連出版物の刊行

既存刊行物の増刷、再編集等。

B-2 研究情報誌の発行

機関誌「季刊理想」の発行

「教育とコミュニケーションの研究情報誌」として発行し、小・中・高等学校、教育委員会など、教育関係者に配布する。

読者層の拡大をめざし、掲載記事の充実を図る。

B-3 ホームページの運用

財団事業の告知や活動報告、情報開示のほか、プリントコミュニケーション活動に役立つ情報の提供をさらに充実させる。

また、財団発行の「理想はがき新聞」はホームページと連動させ、紙面では限られていた写真や図画情報提供を充実させる。

【C】助成・顕彰事業

C-1 後援・支援の事業

1. 第 25 回「臨書と自由書作品展」の共催

児童の書を考える会主催の本作品展とコンクールは、書教育を通じ、心豊かな人間の育成を考えながら青少年の創造性を育み、書芸術の美意識の向上を図ることを目的として開催する。

2. 文化芸術教育の充実に関する事業への助成

各地の教育委員会が主催する、学校における文化芸術活動の発展・充実と、児童・生徒の健全な育成を目的とする事業を支援する。

3. その他、プリントコミュニケーション活動、コミュニケーション文化の発展に関わる事業に必要なに応じ助成・支援する。

C-2 新聞教育の普及・振興

1. 第 68 回「全国小・中学校・PTA新聞コンクール」の後援

主催：毎日新聞社、全国新聞教育研究協議会 上位受賞校に対し、理想教育財団賞と副賞を提供する。

2. 第 61 回「全国新聞教育研究大会」神奈川大会の後援

3. 地域の新聞教育に対する支援

- ・「東京都小・中学校・PTA新聞コンクール」
- ・「北九州市小・中・特別支援学校新聞コンクール」
- ・「岩手県小・中学校新聞コンクール」

他、各地で開催されるコンクールを支援する。

C-3 日本人学校等への支援・助成

1. 児童図書への寄贈

海外日本人学校(補習授業校を含む)10校に対し、1校あたり児童図書約40冊を寄贈する。

2. ネパールへの教育支援

平成28年からの図書寄贈及び教育支援を継続実施する。

3. エジプトでの日本式教育システム導入に対する支援
パイロット校(3校)に対する印刷機材の支援を実施する。

C-4 コンクールの開催・顕彰

第15回「プリントコミュニケーションひろば」の開催

教師が制作する学校だより・学年通信・学級だより・教科通信・給食だより・図書通信等を対象とし、各種通信の質の向上を目指すとともに、学校・家庭・地域間のコミュニケーションツールとしての活用を促し、学校運営の改善と発展に貢献する。

第14回「プリントコミュニケーションひろば」の審査結果発表は6月上旬、また表彰を7月初旬に行う。

以上